

令和4年度 厚生労働行政推進調査事業費補助金（慢性の痛み政策研究事業）
分担研究報告書

痛みセンターを中心とした慢性疼痛診療システムの均てん化と
診療データベースの活用による医療向上を目指す研究

研究分担者 伊達 久 仙台ペインクリニック麻酔科 院長

研究要旨

慢性疼痛診療システムの均てん化を目指すために、慢性疼痛診療の知識の普及および医療連携の構築が必要であり、そのために慢性疼痛診療ガイドラインを用いて研修会を各地で開催し、その効果を検証する。

A. 研究目的

慢性疼痛診療ガイドライン研修会の開催により、慢性疼痛診療の知識の向上および地域のコミュニケーションを強化することで医療連携システムを構築し、その効果を検証する。

B. 研究方法

各地で慢性疼痛診療ガイドライン研修会を開催し、アンケートを行うことでその効果を検証する。

（倫理面への配慮）

症例検討では実際の症例ではなく、仮想の症例を用いることで個人情報保護などに配慮する。

C. 研究結果

慢性疼痛診療ガイドライン研修会を各地で開催した。（令和4年9月岡山、令和4年10月山口、令和4年11月高知、令和4年12月富山、令和5年1月鹿児島、令和5年2月東京）

D. 考察

慢性疼痛診療ガイドライン研修会の参加者は医師、歯科医師、看護師、理学療法士、作業療法士、薬剤師、公認心理師（臨床心理士）、MSWなど多岐にわたっていた。慢性疼痛診療においては医師・看護師だけではなく、多職種の協力が必要と考えられた。

また、地域の多職種でのディスカッションにより地域における医療連携の手助けになれたと考えられた。

E. 結論

慢性疼痛診療ガイドライン研修会を開催することにより、慢性疼痛診療に関する知識の向上だけでなく、地域の医療連携の構築の手助けになっていた。これにより慢性疼痛診療の均てん化の一助になったと考えられる。

F. 健康危険情報

総括研究報告書にまとめて記載

G. 研究発表

1. 論文発表
現在論文推敲中
2. 学会発表
なし

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし